

「改憲ノー」の声、今こそ！

10日投開票の参議院選挙で、自民党、公明党、日本維新の会、国民民主党などの改憲勢力が改憲発議に必要な3分の2以上の議席を得ました。このことによって、岸田首相は早期の改憲発議に向けた取り組みを進めると表明していますが…。

国民は改憲を求めているのか？

今回の参院選で、国民の多くが早期の改憲を求めて投票したわけでもないことは、各報道機関が行った調査結果でも明らかです。

時事通信が10日に実施した出口調査では、有権者が最も重視した政策は「景気・雇用対策」が30.2%、「年金・介護・医療」が15.7%、「子育て・少子化対策」が11.1%と続き、「憲法改正」は4.7%で6位でした。

共同通信が8、9日に行った電話世論調査でも、「何を最も重視して投票するのか」の質問に「憲法改正」と答えたのはわずか3.6%。最も多かったのは「物価対策・経済対策」で41.6%でした。

読売新聞の世論調査（6月22、23両日実施）では、参院選で特に重視したい政策や争点を複数回答で聞き、9項目中「憲法改正」は最下位でした。「朝日」が7月4、5両日に実施した世論調査では、岸田政権のもとでの改憲に「賛成」の36%を「反対」の38%が上回っています。

「ウクライナ危機」だからこそ「平和憲法」を
「ウクライナ危機」に乗じて、改憲勢力からは、「憲法9条改定自衛隊明記」「軍事費倍増」「敵基地攻撃能力保有」「核共有」などの発言が飛び交っています。しかし、「軍事vs軍事」では何も解決しないどころか、惨劇は広がるばかりです。
「日本が攻め込まれたらどうするんだ」という声が

聞かれます。そうならな
いために、「憲法9条」
を生かした平和外交を行
うことが政治の役割では
ないでしょうか。

今こそ「改憲ノー」の声
をあげよう！

改憲発議に「前のめり
」になっている改憲勢力
を止めるために、何をす
べきでしょうか。それは、
やはり私たちが「改憲ノ
ー」の声を広げること
です。国会では、残念な
がら改憲勢力が多数を占
めました。国民の多数は
早期の改憲を望んではい
ないということを示すこ
とです。

私が好きなバスケット
ボール漫画に出てくる指
導者のセリフで、「あきら
めたらそこで試合終了で
すよ」という言葉があり
ます。あきらめてはいけ
ません。「改憲ノー」の
声で国会を包囲し、改憲
議の策動をストップさせ
ましょう！



畠山和也「かけかる記」

2022年7月11日

胸を張って新たな決意で

元衆議院議員 畠山和也

「くらしが大変なので減税してほしいです」「農業の現状が心配」「一番の関心は労働環境かな」。選挙最終日に、足を止めて最後まで演説を聞いてくれた青年たちの声です。身近な明日もこれからの未来も見通せない、その不安に応える活動を広げなければと痛感しました。

松橋ちはるさんの思いを継ぎつつ、多くの方といっしょに声をあげた参院選でした。「戦争させない市民の風・北海道」と新社会党北海道本部から推薦をいただき、グリーン9条の会世話人の植田英隆さん、室工大大学院教授の清末愛砂さん、洞爺湖町長の下道英明さん、女のスペース・おん理事の近藤恵子さんが初めてマイクを握ってくださいました。平和、人権、地域経済、ジェンダーなど、お一人お一人の言葉が胸に響きました。

議席に届かなかった私自身の力不足を受け止めつつ、切実な要望を実現するため、いっそう地に足をつけた活動に力をあわせたい。比例3議席を獲得し、再選できた岩淵友参議院議員はじめ国会との連携も強めます。掲げた公約は間違いないものですし、胸を張って、新たな決意でがんばります。

全道の党員・後援会員・サポーターのみなさんから、たくさんの激励をいただきました。日本共産党100年の歴史は、このような一人一人の粘り強さがあったからこそ。この草の根の力が強くなれば必ず社会は変えられます。

来年には統一地方選挙があります。引き続き日本共産党へのお力添えをお願いします。